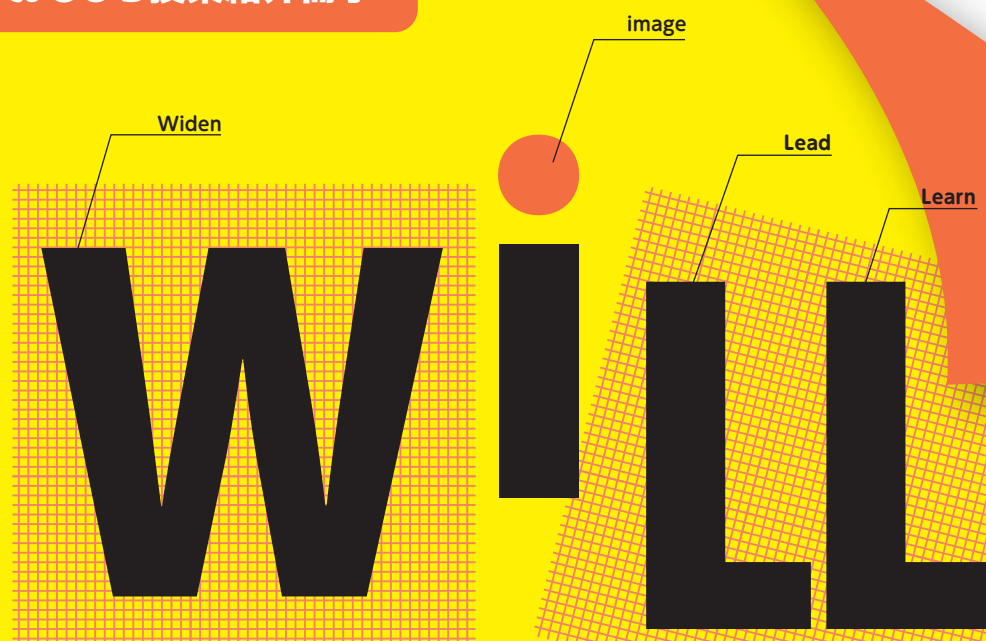


先輩たちによる
おもしろ授業紹介冊子



ウィル



GIRL

BOY

学生

学びに導かれて

そんな経験を東洋大学でつぼみ。自分の視野や想像

がみるみる広がっていく。

広がる



そんな思いを込めて、

8名の学生が作成しました。

東洋大学FD推進センター学生FDチーム



1……先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子 WILL について

2 「応用倫理学 A/B」
中里 巧先生(文学部・哲学科)

3 「物質の科学 A/B」
鈴木 孝弘先生(経済学部・経済学科)

4 「地球の科学 A/B」
澤口 隆先生(経済学部・経済学科)

5 「企業のしくみ」
井上 善海先生(経営学部・経営学科)

6 「スポーツ健康科学実技ⅠA/B」
土江 寛裕先生(法学部・企業法学科)

7 「法学 / 日本国憲法」
武市 周作先生(法学部・法律学科)

8 「社会貢献活動入門」
林 大介先生(社会学部・社会福祉学科)

9 「井上円了と東洋大学」
三浦 節夫先生(ライフデザイン学部・人間環境デザイン学科)

10～11……学生FDチームコラム
～アンケート結果から見る面白いと感じる授業とは～

12～13……編集後記



はじめに

—先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子
WiLLについて—

Q. どうやって
作ったの？

白山キャンパスの約2万人の学生を対象に、
ToyoNet-ACE(授業支援システム)を使って、
「他の学生に履修をおすすめしたい授業」について
アンケートを行いました。
そのアンケートで寄せられた185件の声をもとに、
8つの授業をピックアップし、
授業を担当している先生方にインタビューをして、
その内容をまとめたものです。

履修をしてみてその授業や
学問に対してさらに興味や関心が
高まった授業のことを指します。

Q. 「おすすめ授業」
の定義は？



本冊子に掲載している情報は平成27年度の内容です。
授業を履修する前には、必ず **ToyoNet-G** に
掲載されているシラバスを熟読したうえで 履修してください。

学生FDチームより新入生の皆さんへ ●●●●

大学生活4年間は、多くを学び、多くの人と出会い、様々な力を身につけることのできる、とても貴重な期間です。4年間で学びや経験は、生涯を通してかけがえのないものになるはずです。

東洋大学は、自分次第で魅力あふれる先生や、自分の視野をみるみる広げるような授業とたくさん出会える場所です。今回紹介できたのは数あるおすすめ授業の中の、ほんのひと握りです。同じ教室で学ぶ他の学生とはもちろんですが、先生方ともぜひ自分から積極的に交流して、みなさんの「おすすめ授業」をたくさん見つけてみてください。学びのその先には、きっともっと大きな世界が広がっています。新入生の皆さんが、これから充実した4年を過ごせるよう、学生FDチーム一同、心から応援しています。

担当教員 中里 巧 先生

文学部・哲学科

オフィスアワー：金曜日12:10～13:00

連絡先：fwkk6787@mb.infoweb.ne.jp

配当学年 1年～

対 象 1部

講義内容

現代社会の倫理的諸問題に関する実態を様々な位相から取り上げ、福祉(幸福)とは一体何を意味し、それをどのように見出すべきで、どのように実現するのかを、「ケア倫理」の観点で見出していく。
(シラバスより抜粋)

授業形態

板書、レジュメ配布、映像資料、講義形式
中規模教室(50～149人)

中里先生は平成28年度
国内特別研究のため授業
の担当予定はありません



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 「北欧北方精神史」という、約1万2000年前から北欧や北方で生きていた人々がどのような考えを持ち、今に至って

いるのかを研究しようと思ったことがきっかけです。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A 第一には寝ないことです(笑)!そして、小説など何でもよいので本を読む習慣をつけてほしいです。本を読むと文脈の読み方が身に付きます。文脈を読むことがなぜ必要なのかと言うと、文脈は本に限らず世の中の人間関係においてもあるからです。いちいち説明をしないと、「この人はどういう人なんだろう」と分からないのでは困ります。文脈が分かれば、人から叱られたり、失敗をしたときに得る気付き方が違います。そのため、いろいろな意味で文脈を想像することができることは大切なことです。読書の時間は、10分でもいいので本を読む習慣をつけてください。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A 一番大事にしていることは、学生に意味が通じることです。学生に意味が通じなければ仕方ないので、通じるための工夫を常に考えています。自分自身が実際に関心を持って伝え、相手にも通じるのです。ところが、自分が関心を持たずに、つまらないなと思ってしゃべっていると相手に伝わりません。だから、自分にとって知識が新鮮でないと、学生に通じないということがあります。本当に単純なことですが、意味が通じるための工夫というのではなく、ハートみたいなものが大事なのだと思います。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 1つは、「工夫」です。時代が変われば、工夫も変えていかないとけないからです。

もう1つは、なによりも「ハート」です。どうしたら学生が感動してくれ、「良い授業だったな」と思ってくれるのか、どういうふうにしたらそうできるのか、ということは常に考えています。

Q 学生に向けて一言、お願いします!

A 今の時代、「非正規雇用が4割」と言われているなど、とても辛く、生きにくい時代だと思います。しかし、マザー・テレサが言ったように、どんなに辛いことがあっても、いい事をやり続けると良いでしょう。1日、どこかで、たった1つ、小さなことで良いので、「いい事」をしてください。

人を憎むことはエネルギーを消費するのでとても疲れることです。しかし、人を憎む代わりにそのような人に「いい人になってほしい」と祈る気持ちを持つと、気がとても楽になりますよ。



この授業をオススメした学生の声

- 「死」を学び、生きることの価値を再考し、今後の自分の働き方など、今後生きていくうえで欠かせない知識がたくさん学べます。
- 先生ご自身の経験から、「アルツハイマー」という国民病の知識を学ぶことができます。

インタビュー担当：経済学部総合政策学科 4年 戸田裕貴

担当教員 鈴木 孝弘 先生

経済学部・経済学科

オフィスアワー：水曜日10:00～14:00

連絡先：suzuki@toyo.jp

配当学年 1年～

対 象 1部・2部

講義内容

日常生活に関連する物質がどのような科学的特性をもっているか、あるいはその作用や機能がどのような仕組みで現れるかの基礎をできるだけ平易に解説する。
(シラバスより抜粋)

授業形態

視聴覚教材, PowerPoint
大規模教室(150人～)



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 私が大学生の頃は、大気汚染や水質汚濁など、日本の環境問題がまだ深刻な時代でした。そのような時代だったので、“環境”が

新しい学問分野として注目されていました。

大学院進学時、“環境”と名前のついた専攻を持つ大学院はほとんどありませんでしたが、「化学環境工学」という分野に進みました。そこで、化学をベースにした環境の研究に携わっていかうと思ったことがきっかけです。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A 一般的なことですが、スマートフォンを使ったり、他の科目の課題や勉強をしたり、授業の終わりに入ってきたりせずに、集中して授業に臨んでほしいです。皆さんが払っている授業料から計算してみると、1科目の単位を取得するためには、2～4万円くらいかかります。それだけのコストをかけているのですから、しっかりと知識を身につけてほしいと思います。授業中に他のことに気をとられていては、その分だけ無駄になってしまいます。その場でしか学べないこともたくさんあるはずで。経済的な面から見ても、しっかりと授業を受けて、少しでも新しいことを学んでほしいと思います。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A 授業では、現実の身近な問題になるべく理論を結びつけて、興味をもって学んでもらえるようにしています。物質の科学と聞くと「化学」と思いがちです。私も学生時代、「化学」を一般教養科目として学んでいましたが、その授業は非常に退屈でした。理論的な話や反応式ばかりで、現実の問題との関係がほとんど述べられていませんでした。そのように、理系の学生でも退屈に感じやすい「化学」の授業を、文系の学生に興味をもってもらえるよう、工夫しています。

また、文系の学生でも、進路としてメーカーなどの業界

に活躍の場が広がっています。そのため、ビデオを使用して模擬工場見学を行ない、工場や製造プロセスなどに興味をもってもらえるようにしています。進路を考える上でも、学問に関しても、視野を広げてもらいたいです。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 授業中のスマートフォンの使用をどのようにして減らすか、ということです。スマートフォンを使用すると、教科書を読まないという学生も多くいます。ネット上では簡単に情報などを調べることができますが、その情報には正しいことだけではなく、正しくないことも多くあります。それを鵜呑みにせず、教科書など、きちんと書物に書いてあることを自分で考えながら学ばなければなりません。ネットで調べるだけでは、きちんとした学力・知識は身につけません。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A この科目に限らず、自然科学の科目は、教養や視野を広げる上で非常に重要な科目です。日本人は外国人と比べると、サイエンスのリテラシーが低いと言われていいます。そのため、原発事故などがあっても、正しく問題を認識できないなどの場合もあります。色々な学びや経験を通して、視野を広げてください。



この授業をオススメした学生の声

- 小テストがあってしっかり取り組めるし、DVDを見ながらの授業なのでわかりやすいです。
- 日常の起こりうる様々な事象を物質を通して、解明していくところが良かったです。
- 授業時に資料映像を観ながら行っているの、わかりやすいです。

インタビュー担当：社会学部社会学科 3年 齊藤克弥

担当教員 澤口 隆 先生

経済学部・経済学科
オフィスアワー：金曜日10:40～12:10
連絡先：tsawa@toyo.jp

配当学年 1年～

対 象 1部・2部

講義内容

地球はさまざまな環境変動の歴史を経て現在の姿となった。46億年にわたる地球システムの進化を学び、俯瞰的な視野を持ってもらえるようにする。
(シラバスより抜粋)

授業形態

板書、レジュメ配布、PowerPoint
大規模教室(150人～)



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 大学では物理学を勉強したいと思っていましたが、たまたま入学したのが教育学部地学専修でした。具体的な将来の夢は特にありませんでしたが、小さい頃から漠然と科学者には憧れていました。卒業研究で北海道の地質調査を行いました。自らの手と足で岩石試料とデータを集め、科学的なアプローチから地球の歴史を明らかにする、地球科学のダイナミクスに魅了されました。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A 受講者にはとにかく授業に出席し、話を聞き、自分が知らなかったことを1つでも多く知ってもらいたいです。地球は46億年の歴史を持ちます。地球環境がどのように移り変わり、今私たちがどこに立ち、そしてどこへ向かっていくのか、という視点で物事を考えることが出来るのは、地球科学を学ぶ1つの大きな意義だと思っています。地球は太陽系の中にあり、その外には銀河・宇宙が広がっています。そのような「空間」と「時間」のスケールで考える機会が日常では少ないと思いますが、是非地球の科学を履修して、一緒に考えてみて欲しいと思います。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A 私は、東洋大学に着任する前の6年間、厚木市にある短期大学でプログラミングを教えていました。そのため、授業では普通に映像を見せるだけでなく、地球の立体図など私自身がプログラムしたアプリも教材として使い、具体的にイメージしてもらえるような工夫をしています。他にも、授業で配るレジュメの重要な部分を穴埋めにする事で、学生がノートをとることに一生懸命になってしまい、聞くことが疎かにならないように工夫しています。また、復習として授業内容の簡単なテストを、次の週の始まりまでにToyoNet-ACEで解いてもらっています。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 私は、実際に「モノ」を見てもらうということを大切にしたいと思っています。授業中に岩石試料を回覧することがありますが、履修人数が多いため、全員がじっくりと観察できないこともあります。そのため、受講者全員が実物に触れ、深く考えてもらうための工夫が出来たらと思っています。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A アメリカの研究データでは、10代が10年後に、現在存在しない仕事に就く割合が65%であるとされています。つまり、私たちは、未来で何をしているのかということは分からないのです。スティーブ・ジョブズは「未来を見据えて、点と点を結びつけることはできません。できるのは、未来から過去を振り返って、点と点を結び付けることだけです。ですから、我々は、いつか人生のどこかでそれらの点が結びつくことを信じるしかないのです」と言いました。いつか、どこかである点とある点が結びつき、新たなアイデアや可能性が生まれることを信じて、これまでは興味を持たなかったようなことこそ、大学で学んでいって欲しいと思います。



この授業をオススメした学生の声

- 地球の歴史、宇宙の広がりなどを学ぶことができ、大学での学問についての捉え方も学べます。また、かつて「しんかい6500」に乗船した体験を踏まえた授業で、とても興味深く履修できます。
- 地球で起こるあらゆる事象に加えて、原子力などに関しても触れます。先生自身も学んできたことをさらに深めるため、アプリを作ったりしています。またToyoNet-ACEを使った復習を兼ねた小テストもしますので、継続的な学びができると思います。

インタビュー担当：経済学部経済学科 1年 上地冬哉

担当教員 井上 善海 先生

経営学部・経営学科

オフィスアワー：金曜15:00～16:00

連絡先：inoe@toyo.jp

配当学年 1年～

対 象 1部・2部

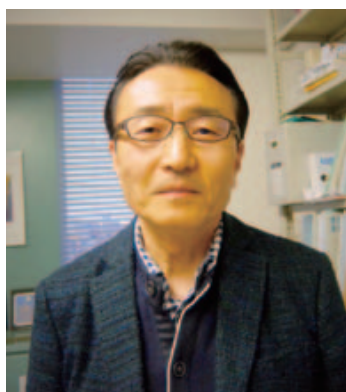
講義内容

企業とは、どのような存在なのか、どのようなしくみで出来上がっているのかといった疑問に答えていくことを本講義の目的としています。講義は経営学を専門としない学生の方々でも理解できるよう、実際の企業事例を豊富に示しながら進めます。

(シラバスより抜粋)

授業形態

テキスト、PowerPoint
大規模教室(150人～)



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 専門は、経営戦略論と中小企業経営論です。20代で会社を経営し、30代はコンサルタント業に携わり、40代から大学教

員になりました。

会社経営や経営コンサルタントを行っていた経験から、その延長線上にある今の研究に関心を持ちました。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A 受講者の皆さんには、「論理的に考える力」を求めています。大学で学ぶ上では、これが一番大切だと思っています。大学では学問、つまり学び問うわけですから、自分自身で考えなくてははいけません。高校までの正解が一つという勉強とは違い、学問はそもそも答えが一つでは無いのです。皆さんが就職して仕事を始めると、答えの無い問題に出会うことが数多くあります。それに対して答えを出そうと思うのであれば、論理的に考えないといけません。また、試験では、マークシートではなく手書きで書いてもらっています。手書きの答案だと、論理的に考えているかどうかすぐにわかるからです。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A 文系6学部の学生たちが受講するので、経営学を学んでいない学生に企業のしくみを理解してもらうためにはどのようにすれば良いかと常に考えています。このため、コンビニやファストフード業界など、学生にとって身近な業界の事例を毎回講義に取り入れるようにしています。また、企業から外部講師を招いて、理論と実際が一致しているか、していないかを考えてもらったりもしています。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 大規模教室での授業ですので、できるだけ参加型の授業にしたいと思っています。そこで、授業の中でミニレポートを実施し、課題の他に講義内容に対する意見・質問も書いてもらうことで、授業改善に活かしています。書かれた意見・質問については、次の授業の冒頭で回答し、受講者全員で共有できるようにしています。また、ボソボソとしゃべるクセがあるので、大きな声で明快にしゃべるよう心がけていますが、なかなか治りません(笑)。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A 学生にはいつも、「成功を目指すのではなく、成長を目指せ」と言っています。成功は一時的なものです。成長には終わりがありません。成功は「功成り名遂げた」ということで、そこで「終わり」になってしまいます。人生は最後までずっと成長の連続だと思います。だから、学生の皆さんには、常に成長を目指してほしいと願っています。



この授業をオススメした学生の声

- 授業の途中でユーモラスな話題や関連した面白い話をされ、飽きない授業でした。
- 企業の裏側を垣間見えるような先生の体験談が聴けるので、とても面白い授業でした。

インタビュー担当：社会学部

メディアコミュニケーション学科 4年 清水晃太

スポーツ健康科学実技 I A/B

information

平成28年度の最新情報をToyoNet-Gでご確認下さい

担当教員 土江 寛裕 先生

法学部・企業法学科
オフィスアワー：火曜日16:30～18:00
(白山体育教官室・4号館地下1階)
連絡先：tsuchie@toyo.jp

配当学年 1年～

対 象 2部

講義内容

主に初心者を対象に、バドミントンを通じて、健康・体力向上を図るとともに、必要な基礎知識、基礎技術、ゲームの進め方を学ぶ。

(シラバスより抜粋)

授業形態

体育実技科目
小規模(～49人)



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 「バイオメカニクス」という学問に出会ったことがきっかけです。バイオメカニクスとは、身体動きを力学的に数値化することで、例え

ば足が早い選手はどのようにしたらより速くなるのかということを明らかにすることができます。学生時代に東京で世界陸上があり、バイオメカニクスの研究者チームが、当時の世界のトップ選手の動きを分析しました。その結果、当時の日本の選手と世界のトップ選手とでは、実践していた走り方やトレーニング方法が違うということが分かりました。そこで、科学的に観測されたデータをもとに、当時の日本選手の走り方やトレーニング方法を変えたところ、日本の陸上競技の水準がますます上がりました。そのようなことを知り、私はバイオメカニクスに興味を持ち、研究を始めました。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A バドミントンをうまくやろうと意識するのではなく、健康になるためのツールとして考えてください。健康とは、汗をかく、きちんと食べて、きちんと寝て、きちんと運動ができることです。健康であるから初めて、勉強ができたり、将来、仕事ができたりします。この授業を受けることによって、このような健康的な習慣を身に付けてほしいです。

スポーツにあまり興味がない人でも、バドミントンは楽しくできますので、そのような学生にこの授業を履修してもらいたいです。健康的な習慣をつくりながら、楽しく授業を受けてほしいと思います。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A この授業をやっていると、バドミントンが上手な学生も来ます。しかし、バドミントン初心者の学生でも、どうしたら楽しくバドミントンができるか、ということに気を付けて授業をしています。授業の中ではいろいろなレベルの学

生と一緒に、楽しくゲームができるようにしています。例えば、普通にゲームをするだけでなく、チームをつくって、リーグ戦を行ったりします。このような工夫をすると、チームの中でお互いにコミュニケーションをとるようになり、それも授業の1つの目的です。他の人と作戦を考えたり、「もう少しこうの方がいい」などという話ができると思います。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 私はバドミントンの専門家ではないので、逆に上級者の学生がバドミントンを楽しむためにどうしたらいいのかということ、もう少し勉強してみたいと思います。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A 私は白山の2部の授業しか持っていませんが、1部や他キャンパスにもたくさんの方のスポーツの授業があります。体を動かし、コミュニケーションを取ることができる授業があることは、学生生活が楽しくなるきっかけになると思います。

オリンピックが開催されるので、スポーツに親しんで、興味を持ってください。そして2020年のオリンピックに関わるきっかけにしてほしいです。



この授業をオススメした学生の声

- 最初から最後まで平等に一人一人が楽しめる授業内容でした。履修していた人とコミュニケーションが取れる授業でした。
- 男女学生一緒にやっていて、チームワークの意識が更に高まりました。

インタビュー担当：国際地域学部国際地域学科 1年 終平健貴

担当教員 武市 周作 先生

法学部・法律学科

オフィスアワー：金曜14:45～16:15

連絡先：takechi@toyo.jp

配当学年 1年～(法学/日本国憲法共通)

対 象 2部(法学/日本国憲法共通)

講義内容

この講義では、実際にあった事件や具体的な政治・社会問題について憲法に基づいて考えていきます。また、主に日本国憲法に関する具体的な問題を取り上げていきます。
(シラバスより抜粋)

授業形態

レジュメ配布, PowerPoint
中規模教室(50～100人)



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 大学生の時は、弁護士になることや、司法試験を受けることも考えていました。大学2年生の時に、後の指導教員になる先生の授業を受けました。その授業が非常に印象的でおもしろく、「こういう人になりたい」という憧れを強く持ったことがきっかけです。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A この授業は基盤教育科目ですから、専門科目の授業とは異なり、受講する学生は法学部以外の学生です。そのため、法学独特の学問の手法を味わってもらえれば十分で、法学に対して興味を持ってもらえればいいと思っています。その時に気をつけてほしいことは、各受講生が所属している学部の視点から、法学というものを見てほしいということです。ですから、それぞれ所属している学部の考え方に繋げて、法学を考えてみてほしいと思います。また、常に「考える」ことを大切にしてほしいです。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A 毎回必ずパワーポイントを使って、授業を行っています。パワーポイントに頼りすぎると紙芝居のようになってしまうので、その点には気をつけつつ、パワーポイントの作成には時間をかけています。それだけではなく、授業で話す内容にも興味を持ってもらえるように、学生が所属している学部の特色を考慮しながら、興味を持ちそうな話題を考えて話しています。また、受講している学生の顔はとにかく見るようにしています。受講生が「聞きたいな」という顔をしている時は、話を膨らませたりしています。受講生が「伝わらなかった」という顔をしている時には違う例を用意して、授業内容が伝わるように工夫しています。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A エンジンがかかってくると、すごく早口になってしまふ癖があります。受講生からすると、もう少しゆっくり話してほしいと思っているのではないのでしょうか。また、情報量が少し多すぎるという点は、改善していかなければならないと思っています。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A 授業評価アンケートでも構いませんし、どのような方法でも構いませんので、皆さんが思っていることや感じていることを、相手に向けて書いたり伝えたりしてほしいと思っています。ただし、悪口や建設的ではない意見は、相手に届かないので、意味がありません。

せっかく大学に来ているので、学問や勉強を楽しんでください。皆さんは何か問題意識を持っていると思います。それを大学の学問に結びつけて発揮してほしいと願っています。教員としてというよりも、一国民として、社会の中に発信してほしいと思っています。



この授業をオススメした学生の声

- 日ごろ生きている社会が法の支配によって保たれていることに気が付かされました。
- 法学初心者に対して分かりやすい説明と、これまでの憲法の観点を詳しく理解できる授業で、法学に対して興味関心が高まりました。

インタビュー担当：法学部法律学科 1年 清水彩可

社会貢献活動入門

information

平成28年度の最新情報をToyoNet-Gでご確認下さい

担当教員 林 大介 先生

社会学部・社会福祉学科

オフィスアワー：火曜日 15:00～16:00 (春学期のみ)

水曜日 15:00～16:00

金曜日 17:00～18:00

連絡先：dhayashi1976@gmail.com

配当学年 1年～

対 象 1部・2部

講義内容

NPO／NGO及び企業の「社会貢献」のありかたについて学ぶと共に、分野別の活動内容や各活動が始まった背景について深めていきます。

(シラバスより抜粋)

授業形態

レジュメ配布、課外活動あり

大規模教室(150人～)



Q 先生が現在研究されている分野・学期に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 私はもともと政治学を学んでいました。その中で、市民参加、特に子どもの参加の研究に関心を持ち、取り組むようになったことが

きっかけです。社会貢献活動入門の授業では、NPOやNGO、企業のCSR(企業の社会的責任)を扱います。また、実際に私が市民参加、子どもの参加に関わってきた中で出会ったいろいろな取り組みや人々、課題や制度などを取り上げています。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力はありますか？

A 求めている力は特別ありませんが、「社会で、今何が起きているのか」ということは、やはり意識してほしいです。その中で自分に何ができるのか、どのような課題が存在するのかということを常に意識してほしいと思います。学内だけではなく、社会がどのような動きをしているのか、自分がその社会の動きとどう関係するのかに関して、問題意識、課題意識を持ってほしいと思います。

Q 授業で工夫している点はありますか？

A 受講人数が多いので、どうしても一方通行になってしまう部分はあります。なので、実際に社会貢献活動の体験をしてもらう機会や、学生同士が話し合える機会を設けるなど、一方的な授業形式にならないように気を付けています。

また、授業の内容が専門的になりすぎないように気を付けています。できるだけ、今起きている問題や、学生が身近に感じることを取り上げるようにしています。そして、受講する学生は私と年代が違うので、今の学生にフィットするようなテーマを取り上げることを心掛けています。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 学生同士が話し合う、一緒に何かを作り上げるなど、学びをさらに深めるような授業にしていきたいと思っています。そして、学内だけではなく、学外の社会との関係が大事だと考えています。そのため、学外の活動への参加を促すことを、もう少しきっちりとやっていきたいです。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A 卒業後、皆さんは社会に出ていきますので、社会における自分の位置や、自分がどのように社会と関わることができるのかということは、意識してもらいたいと思っています。皆さんには、学内にとどまらずに、いろいろな人と出会ってほしいです。それは学生だからこそできることです。社会人になってから他の業種の人と出会うことは、なかなか大変です。「学生の特権」という言い方が正しいかどうかはわかりませんが、やはりその特権を使ってほしいなと常々思っています。インターンやボランティアも含め、社会と関わりを持つことを心掛けてもらえたらいいなと思います。

また、今自分が大学で学んでいることが社会と「どう繋がっているのか」ということを客観的に見てほしいです。そのためにも、学生時代から社会に出ることは大切だと思っています。



この授業をオススメした学生の声

- 実際に団体の活動に参加できたり、自分の活動の幅が広がるいい機会にも恵まれます。
- 法人や企業の方を招いてなぜ自分たちが社会貢献活動に取り組んでいるのかということを講義してくれます。国内外問わず、様々な視点での社会貢献活動について学べます。

インタビュー担当：法学部企業法学科 4年 林大翔

担当教員 三浦 節夫 先生

ライフデザイン学部・人間環境デザイン学科
オフィスアワー：火曜日12:10～
連絡先：setsuo@toyo.jp

配当学年 1年～

対 象 1部・2部

講義内容

この講義では、東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。この講義の内容は現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶことになる。
(シラバスより抜粋)

授業形態

板書、レジュメ配布、PowerPoint、講義形式
大規模教室(150人～)



Q 先生が現在研究されている分野・学問に興味を持ったきっかけは何ですか？

A 大学院生時代に宗教社会学という分野の研究をしていました。昭和53年に「東洋大学で創立者(井上円了)の研究をし

ませんか」という募集があり、私の恩師からその研究に誘われたことがきっかけです。その当時は、井上円了先生のことはそれほど知りませんでした。そんな中、社会学の先生と哲学の先生と組んで井上円了研究会で10年間研究をしていました。そして、東洋大学創立100周年の時に、『井上円了の教育理念』という本が私が書く事になったことがきっかけです。

Q 先生の授業を受けるにあたり、受講者に心がけてほしいことや求めている力は何ですか？

A ある程度本を読んだり、理解したりする力を、授業を受けながら向上させてほしいです。特別な能力を事前に求めることはしません。

Q 授業で工夫している点は何ですか？

A 学生に質問をすることです。例えば、「日本で最初にできた大学はどこですか?」というように、簡単な質問をします。ところが、学生がなかなか分からない場合もある。一発で分かる場合もあります。実際の授業ではお互いの持っている予備知識が絡み合わないこともありますので、授業の進行に合わせながら質問をして、学生にも授業に参加してもらうように心掛けています。また、授業はパワーポイントで行ないますので、わかりやすく、できるだけ簡潔にしています。写真などをたくさん使い、分かりやすくなるように心がけています。

Q 今後、授業について改善していきたい点などありましたら、教えてください。

A 試験では、必ず学生に自分の意見を書いてもらうようにしています。学生自身の意見を採点の対象にして

いて、試験では、必ず学生に自分の意見を書いてもらうようにしています。東洋大学はどのような大学か、井上円了先生はどのような先生なのかということ、自分なりに評価したり考えたりする力を学生に養ってほしいと考えています。そのためには、学生にどのような刺激を与えて授業をすればいいかということを考えています。

Q 学生に向けて一言、お願いします！

A 創立者の井上円了先生のことを、構えずに知ってほしいです。哲学は皆さんが考えるほど難しいものではありません。哲学はやはり自分で知るものなので、問題が何かというものを、自分なりに納得して探さなくてはなりません。心の中まで、知りたいという気持ちが沸き上がってこないといけません。

先生と学生は身分上の差はありません。専門家と、これから知識を蓄えていく人との違いはありますが、ともに勉強している存在です。ぜひ、先生方と一緒に、短い時間でもいいので話をしてほしいです。私たち教員も変な人種ではありますが(笑)、先生が学生を差別することはありません。はじめはわからなくて当然です。何事も、考え続けるということが大事です。



この授業をオススメした学生の声

- 東洋大学の歴史や、東洋大学を創立した井上円了先生の生涯について学べる授業です。自分の大学の過去について深く知ることができ、新しい東洋大学の魅力を発見できます。
- 自校の歴史を知ること、大学生活へのモチベーションの向上に充てられます。

インタビュー担当：文学部教育学科 4年 大森優也

アンケート結果から見る 「学生が面白いと 感じる授業とは」



授業支援システム(ToyoNet-ACE)を使って、「授業を通して興味・関心が高まり、他の学生に履修をおすすめしたい授業」についてアンケートを行ったところ、185件の回答が寄せられました。そこで、学生FDチームで、アンケート結果をもとに、学生から見た授業の「おもしろさ」にはどのような特徴があるのかを話し合いました。

わ か り や す い 授業は楽しい授業？

齊 藤 アンケートには「なぜその授業をおすすめするのか」についての自由記述欄を設けました。その回答の中で、1番使われていた言葉や要素はありますか。

林 全体的に、「わかりやすい」という声や、授業をおすすめする理由として目立っていますね。「解説が非常に明晰」など、「わかりやすい」に通じる言葉が多く見られます。

齊 藤 確かに、「わかりやすい」ことは学生が授業に関心を寄せるきっかけとして、とても重要な要素ですね。それでは、具体的に先生のどんな工夫が「わかりやすさ」につながっているのでしょうか。例えば、板書とか？

林 確かに板書のことは書かれていますね。あとは、「映像資料が豊富でわかりやすい」というものもあります。レジュメなど、配布資料のわかりやすさも書かれています。

齊 藤 たしかに、今回インタビューをさせていただいた先生方に伺ってみると、スライドやレジュメに工夫がされていたり、映像資料で模擬体験をする機会があったり、「わかりやすさ」への工夫をたくさんされているようです。

戸 田 他には「話す内容」というものがあります。専門的な難しい話ばかりでなくて、時々余談を交えてくださる先生の授業は、確かに楽しく感じて先生の人柄にも惹かれますし、それがわかりやすさにつながることがあります。

齊 藤 なるほど。たしかに、真面目な話と楽しい話のバランスが絶妙で、メリハリを感じるような授業は魅力的ですね。時間が経っても、講義内容を思い出せる授業は、考えてみるとそういう授業かも。

戸 田 「楽しい」と思うと、先生の人柄はもちろんですが学問そのものにも関心が高まり、「もっと学んでみよう」と思いますよね。

齊 藤 「わかりやすさ」は「楽しさ」に繋がっていますね。



学 生 に と っ て 身近に感じること

戸 田 アンケートによると、「新しいことを知ることができ、視野が広がる」授業を特に面白く感じているみたいです。東洋大学の歴史や、社会保険制度(年金)といった一般知識を、改めて学べると良いという意見がありますね。

齊 藤 知っているようで知らないことを、ただ「漠然と知る」だけでなく「学問として学べる」ということでですね。

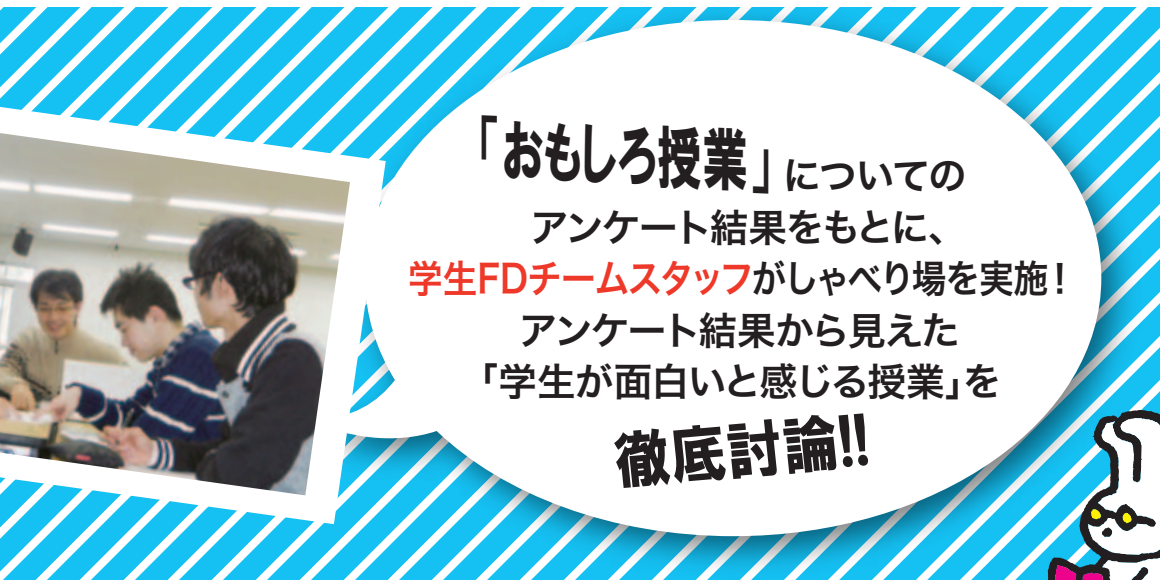
林 その他には、「先生ご自身の豊富な社会経験や体験を聞くことができること」も、おもしろさの要素として挙げられています。色々な経験をされた方の生の声を聞くことは、先生が教えていらっしゃるということが先生の体験や経験に基づいているのだと感じることができ、おもしろさにつながりますよね。

戸 田 理論だけではなくて、経験や具体的な事例から理論の説明をしてもらえると、たしかにイメージも湧きやすいですね。私は経済学部の学生ですが、経済学は特にそのような側面があるなと感じます。

齊 藤 経験や具体的な事例という観点からだとな、インタビューさせていただいた先生もおっしゃっていましたが、先生がゲストスピーカーを招いて授業を行われることもあるそうですね。

戸 田 先生のお話はもちろんですが、ゲストスピーカーの方のお話を聞くことで、大学内外の様々な視点から知識や視野を補完できるように感じます。

林 実社会とのつながりを感じられる授業って、やっぱりいいですね。学生はまだ現場を知らないのに、そういう現場を経験した方の声を聞くことが「おもしろい授業」に繋がるのかもしれない。



「おもしろ授業」についての
アンケート結果をもとに、
学生FDチームスタッフがしゃべり場を実施！
アンケート結果から見た
「学生が面白いと感じる授業」を
徹底討論!!

学生コラム



双 方 向 の関係性

柊 平 リアクションペーパーを使う先生の授業も人気のようです。リアクションペーパーの使い方は先生によって違いますが、主に学生が思っていることや、授業内容に対する意見を書くものです。先生によっては、寄せられた意見を次の授業で紹介してくれることがあります。

齊 藤 東洋大学では、出欠機能やレジュメの配信に用いるToyoNet-ACE(授業支援システム)がありますが、「掲示板」や「アンケート」という機能があり、これらを使用して授業への声を集めたり意見交換をしている先生もいらっしゃいます。意見を集めるだけではなくて、その意見が授業で紹介された方が、学生にとっては良いのでしょうか。

柊 平 直接フィードバックをもらえる機会があると、とても嬉しいですね。紹介されると、他の学生の意見も聞けるし、先生が自分の意見をどう思っているのかも分かるので、紹介して欲しいと思います。

戸 田 「先生>学生」ではなくて、「先生=学生」のようなフラットな関係性も大切だと思います。学生の意見に親身に耳を傾けてくれたり、学生に関心をもってくれていると感じるようなフラットな関係で授業が行われると、とてもよい授業だなと感じますね。

柊 平 あと、他学部の学生と交流したりディスカッションができることもおもしろいと感じる大きな要素になるようです。一つのテーマでも学部ごとに見方が違うのがおもしろく、ディスカッションをしても自分の知見

とは違う見方に出会えます。インタビューをさせていただいた先生も、基盤教育科目を受講するにあたって、「所属しているそれぞれの学問の視点から別の学問を捉えてみること」の重要性をお話してくださいましたね。

齊 藤 双方向の関係が大切であることは「学生と教員」だけでなく、「学生同士」にも当てはまるようですね。

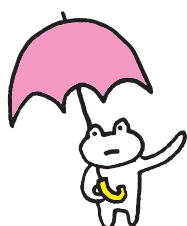
授 業 環 境 や進め方

林 「私語が少ない」「テンポよく授業が進むから楽しい」という意見が寄せられていましたが、授業をどのような環境でどう進めていくかということは、学生にとってはとても重要なことだと感じます。

柊 平 これは先ほどの話と同じですが、教科書の内容を読むだけでなく、スライドや教科書にはない「体験談」を交えた授業はやはりおもしろく感じます。

林 レジュメも穴埋め式だと「しっかり授業を聞いて埋めなきゃ!」という気持ちが出て、集中できることがありますよね。適度な緊張感があることも、大切なかも。

齊 藤 「楽しい」「おもしろい」と思う授業は、「学生と教員が作る」という特徴があるかもしれませんね。



学生FDチーム
スタッフ

社会学部3年
齊藤 克弥

経済学部4年
戸田 裕貴

国際地域学部1年
柊平 健貴

法学部4年
林 大翔



82

この度、学生FDチームの編纂による「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子 Will」の刊行を見たことを大変うれしく思います。大学において授業科目を選択することは学生諸君にとって極めて重要なことで、自らの責任において履修科目を選択しなければなりません。そのための指針が「シラバス」であります。大学ではシラバスの充実に向けて各学部、学科のディプロマポリシーに沿ってカリキュラムマップを作成し、科目ナンバリング制度とも連動させながら学生諸君の学びのための指針としています。これに加えて今回、「Will」は学生諸君のアンケートに基づき、シラバスとは異なる視点から授業の一部を紹介しています。

東洋大学には素晴らしい授業を展開してくださる先生が多数いらっしゃいます。その全てを紹介する術はありませんが、この冊子から先生方の授業に対する思いの一端を感じ取っていただければありがたいと思います。大学における授業を学生、教職員一体となって良いものにしようとする努力が、東洋大学の教育の質向上に繋がると確信しています。“Where there is a will, there is a way”（意志あるところに道は開ける）

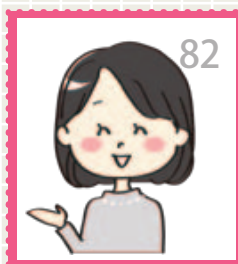
FD推進センター長 神田 雄一



82

学生の就職活動に「履修履歴」を重視する動きがみられる中、学生FDチームの尽力によって授業紹介冊子『Will』が刊行されたことを大変嬉しく思います。自らの興味・関心に基づいて、自らの意志（will）で「学び」を実践していくために、ぜひとも本冊子をお役立てください。そして、みなさんのもっている望み（will）をぜひとも実現させてください。

FD推進センター教育改善対策部会長 千明 誠



82

興味のあることをとことん突き詰める、思いも寄らないようなことに関心を抱く、知りたいことがどんどん増えていく…。大学は、そのような「きっかけ」がたくさんあふれている場所です。東洋大学で開講される年間約5,500もの授業のうち、実際に皆さんが4年間で履修できるのはほんの一部。だからこそ、一つ一つの学びや色々な人との出会いを大切に、きっかけを行動に変えていく力をもって、4年後には東洋大学の卒業生として堂々と飛び立ってほしいと願っています。

最後に、丸一年かけて共に制作に取り組んできた学生FDチーム、FD推進委員会の先生方、そして制作にあたり多大なご協力をいただいた全ての皆さまに深く御礼申し上げます。

FD推進支援室職員 伊藤 藍



82

大学生生活の主軸は授業にあります。皆さんが履修する授業は、人生の中でかけがえのない財産となるでしょう。作成に伴い、先生にインタビューをして、私たちも多くの発見をしました。先生方の授業での工夫や学生に求めていることなどは千差万別です。ここで紹介するものは「おもしろい」授業のほんの一例に過ぎません。百聞は一見に如かずです。この冊子を手にとって、ぜひ教室へ足を運んでみてください。皆さんが有意義な大学生活を過ごされることを祈っています。

学生FDチーム代表：社会学部社会学科 3年 齊藤 克弥



82

私がインタビューをした授業は、偶然にも、私自身が過去に履修をした授業でした。インタビューや制作を通して、改めて「この授業を受けて本当に良かった」「この先生に出会えて本当に良かった」、そして「東洋大学に入学して本当に良かった」と、強く思うことができました。新入生の皆さんにも、「納得のいく」自分オリジナルの履修登録をしてもらえたら嬉しいです。この冊子が、新入生の皆さんの履修登録の際の一助となれば、私は非常にうれしく思います。

学生FDチームWill制作責任者：経済学部総合政策学科 4年 戸田 裕貴

編集 後記



皆さんに自信を持ってオススメできる、東洋大学自慢の授業をたくさん知ってもらいたい。そんな思いで制作しました。

文学部教育学科 4年 大森 優也



先生にインタビューさせて頂き、たくさんのお話が聞けて良かったです。大学には、様々な授業があります。皆さんが興味のある授業を探して、受講して欲しいです。また、その時にはぜひ、この冊子も参考にしてください。

社会学部メディアコミュニケーション学科 4年 清水 滉太



インタビューを通して、先生方は、授業者の学生に知識を与えるためのアイデアや工夫をたくさんお持ちだということを知りました。新入生の皆さんに、高校までとは違う「大学の授業の良さ」が伝わるいいなと思います。

法学部企業法学科 4年 林 大翔



私はインタビューを通して、学生が理解しやすいようにと、先生が多くの工夫をされていることを知り、感動しました。また、授業に対してより関心をもつことができ、今後の学びを深めるともよい機会になりました。

経済学部経済学科 1年 上地 冬哉



この冊子を作るにあたって、「伝える」ことの大切さを認識しました。授業内容や形式が異なる中、インタビューをさせていただいた先生の授業の良さ、工夫されている点などを伝えることは、簡単なことではありませんでしたが、とてもやりがいがありました。

国際地域学部国際地域学科 1年 柊平 健貴

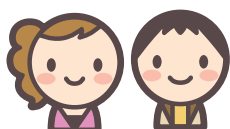


WiLL作成を通して、各先生方が普段どう思っているかなどを、知ることができました。今回このような形で、貴重な機会に参加することができて本当に良かったです。

法学部法律学科 1年 清水 彩可

学生FDチームスタッフ募集中！

応募に関する
お問い合わせ
はこちら



学生FDチームでは、東洋大学での授業、学びを教職員の方々と協力しながら、学生の力を活かしてより良いものにしてゆく活動に取り組んでいます。活動内容及び応募についての詳細は、FD推進センター学生FDチームのホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。私たちと一緒に、楽しく活動し、大学での学びを変えてみませんか？皆さんのご応募をお待ちしております。

※対象：学部1～3年生・大学院生

教科書を読まなくても、スマホで簡単に
色々なことを調べられる時代です。
けれど、簡単に調べられることには、
危険もあります。そういった情報を鵜呑みにせず、
本当の知識を身に着けるために、
しっかりと書物を読んでほしいと思います。
(経済学部／鈴木 孝弘先生)

皆さんの生きる時代は大変で、
とても生きにくい時代だと思います。
嫌なことも頭に来ることもたくさんあると思うけれど、
相手を憎むことは疲れることです。
どんなに辛いことがあっても、一日ひとつ、
いいことをやり続けてみるといいと思います。
(文学部／中里 巧先生)

私は、成功という言葉が嫌いです。
成功と言ってしまうと、
そこで終わりになって、止まってしまう。
けれど、成長には終わりがありません。
人生最後まで、ずっと「成長」だと思っんです。
東洋大学も、成長を続けています。
(経営学部／井上 善海先生)

今の学生のみなさんは、
心の内にすごく熱いものや、
社会への問題意識を、
しっかりもっているなと感じます。
それをどこかで、臆せずに、
自分の外へ出してほしいんです。
大学での学問に結び付けて、発揮してほしい。
学びを楽しんでほしいと思っています。
(法学部／武市 周作先生)

スティーブ・ジョブズが残した言葉のとおり、
自分が打ったどの点と点が結びついて、
新しいものになるかなんていう未来は、
私たちには見えないわけです。
勉強が何の役に立つかって、
それは学生時代に打った無数の点が
結びつくその瞬間にしかわからないことです。
私たちにはできることは、
人生のどこかでそれらが結びつくことを信じて、
できるだけたくさんの点を打つことです。
全然興味がないことや、
役に立ちそうもないことほど、
いつかどこかに結びつくんです。
(経済学部／澤口 隆先生)

実技科目はなかなか
履修しにくいかもしれませんが、
ぜひ一度授業に足を運んでみてください。
授業を受けることで、スポーツに親しみ、
興味をもって、2020年の東京オリンピックに
何かしら関わりたいと思う
きっかけになればいいと願っています。
(法学部／土江 寛裕先生)

社会で今何が起きているのかを意識して、
社会の動きに自分がどのように
関係しているのかを考えながら、
社会と関わりを持つことを心がけてもらいたいです。
学内だけに留まらず、大学4年間を通して、
色々な人に出会ってほしいと思っています。
(社会学部／林 大介先生)

問題が何かを自分なりに納得して
探すことができれば、それは解決することができます。
先生と学生は、学んでいく者同士ですから、身分の差はありません。
私の願いは、この授業を通して、井上円了先生や
東洋大学のことを、肩ひじ張らずに知ってもらうことです。
(ライフデザイン学部／三浦 節夫先生)

これ



東洋大学FD推進センター学生FDチーム

<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/fd-student>